

会長ひとりで 悩まないで！

商店街の組織と役割分担について

ひとりじゃ、
そんなにいろいろ
できんわい！
もう楽隠居したい…



「ひと声」かけるだけで、変わるかも…。

かんたんな
デザインなら
私が…

話くらい
聞かよ

カ仕事なら
手伝えるぜ！



みんなの力がひとつになれば、 商店街も活気づく！

ある商店街の例から

梅屋敷梅交会協同組合 佐々木 央 理事長

梅屋敷梅交会協同組合では、代表理事長とサポート役の理事長の2名体制にしています。代表理事長の任期は2年間で、対外的な役目を果たしています。一方、サポート理事長は、代表理事長の2年の任期のうち半年ごとに交代するようにしており、あらかじめ4名の方が決まっています。代表理事長が忙しい場合は、サポート理事長が代理で行うなど、分担して仕事をしています。ペアで活動することで、代表理事長の負担を軽減するとともに、サポート理事長は次期会長候補として少しずつ仕事に慣れることができ、引き継ぎの手間も省けます。



課題

- 商店街活動を会長など限られた人達のみで行っている。
- 会長や役員任期が長期化しており、商店街活動の新たな担い手がいない。
- 会員同士で互いの情報が共有されていない。

これが
大切

「商店街はみんなで盛り上げるもの！」

商店街活動はひとりではできません。多くの方に関わってもらうことで、より良いアイデアも集まります。会計、企画、広報などの業務を分担して、会長は全体の取りまとめや外部との折衝に専念できるのが理想です。少なくとも会計は会長業務と分けないと、会への信頼を損なうことにもなります。

これから
始める

商店街の組織づくり

① 会長・役員任期についてルールをつくる

商店街の会則等で会長や役員任期が定められていますが、長年改選されていないことも多いようです。会長のなり手がいない理由のひとつに、「一旦引き受けると、やめられない」といった不安があります。安心して会長や役員を引き受けてもらうためのルールづくりを考えてみてください。

② 後任の育成をしておく

会長や役員、または事業の担当などを、いきなりやって欲しいと言われても相手は困ります。あらかじめ次の活動を担う人たちに、商店街の活動について知ってもらう機会を設けましょう。例えば、イベントの担当を2人体制にして、経験者が未経験者に教えながら実施していけば、未経験者も安心ですし、事業のノウハウも引き継ぐことができます。

③ 小さな役割を少しずつ持ってもらおう

会員の店舗の方にとっては、商店街活動はプラスアルファの仕事になります。負担が大き過ぎて、仕事に支障が出てしまったのでは本末転倒です。大きな仕事をひとりの人に任せるよりも、仕事を小分けにして、たくさんの人に少しずつ分担してもらうようにしましょう。

④ 会員同士、お互いのことをもっと知る

皆さんは、商店街の会員同士のことをどれくらい知っていますか？ そのお店の特徴は？ おすすめの商品は？ 常連のお客様や店主の人柄などは？ 商店街活動はイベントだけではなく、やはり日ごろからコミュニケーションをとり、信頼関係を築いてこそ、みんなで協力しようという気にもなります。お互いのことを知れば、お店の状況に合わせて「何が困るのか」、「何をやってもらえるか」など、役割分担も考えやすくなります。また、お客様を相互に紹介し合ったり、コラボ商品ができたりなど、新しい商売のアイデアが生まれるかもしれません。

例

- 会長は必ず●年(●期)ごとに交代する
- 役員は必ず持ち回りで担当し、あらかじめ順番を決めておく
- 新しい会長に就任した際は、半年間は前任会長と二人三脚で業務を行う

商店街の課題や楽しいアイデアなどを、日常的な会話の延長で話せるのがベストです。日頃から近隣の商店同士で、積極的に話をしましょう。

特に新規出店者は不安でいっぱいですので、ぜひ声を掛けてあげてください。人や地域に親しみを持ってもらうことが、商店街活動に参加してもらうための第一歩です。また、新規出店者から新しい意見や発想を得ることは、商店街にとってもメリットとなります。

利用できる制度

- 大田区新・元気を出せ！ 商店街事業
- 再生支援事業 [大田区]
- 商店街振興組合等推進事業 [大田区]
- 進め！ 若手商人育成事業 [東京都]